



洋書輸入協会会報

Vol. 26 No. 3 (通巻298号) 1992年3月

理事会報告

1月29日(水)

(一) 新年懇親会

文化厚生委員長栗原光輝氏(洋販)から、1月8日(水)東京プリンスホテルで開催された新年懇親会には84社239名、その他4名、合計243名の出席のあったこと、および予算上の措置について報告された。

(二) JBIA 協会旗

渉外委員長山川隆司氏(ユサコ)から、先に選定された協会ロゴマークの協会旗を作製したことが報告され、披露された。またロゴマークの清刷りの作製も報告された。

(三) 協会事務所の賃借契約

総務委員長神田俊二氏(丸善)から、先に申し入れのあった4月以降の賃借契約の更改について、家主側との交渉結果が報告され、承認された。

(四) 協会の活動

1992年度の協会活動の方針、目的、計画および資料整備などについて意見を交換、検討してゆくことにした。

(五) その他

海外ニュース

米国商務省が1992年書籍出版業界の成長率を3%と予測

商務省の「1992年産業見通し」によると米国書籍出版業界は景気後退の年、1991年に年率2%の成長をみせ、前年比ランクで同省が選んだ128業種の中63位を占めた。これは前回の「産業見通し」で予測した3%を下回ったものの、この時は景気後退の早期終結を予測していた。今回の1992年の見通しでも同様に米国経済の回復を予測しており、1992年の成長率も3%としている。

1991年と同様、一般書が他の部門—とりわけ州政府による予算削減の影響を受けた教科書出版—に代わって成長の主役を果たすことが予想されている。「産業見通し」の書籍出版部門を担当した消費財局のウィリアム・ロフクウィスト氏によれば拡大する5~14才の年齢集団が児童書の売上増につながり、各国経済の回復により科学・技術書、専門書の輸出が伸びると予想している。長期的に見ると米国の書籍出版業界は、可処分個人所得の伸び、書店数の増加、全般的な人口増により、1996までは年率3%の成長を続けると同氏は予想している。

—Publishers Weekly 1月13日号から抜粋—

—(株)紀伊國屋書店提供—

理事会報告	1
海外ニュース	1
JBIAメンバー英国視察旅行報告	2
洋書輸入協会史(69)	4

計 報	5
うちの会社	6
文化厚生委員会だより	
第62回72会ゴルフコンペ	6

東京の坂と橋と文明開化(22)	7
広 告	8

JBIA メンバー英国視察旅行報告

JBIA 渉外、広報両委員会の企画によりユサコ(株)山川社長をコーディネーターとして、12月10日より12日までロンドン市内で開催される INTERNATIONAL ONLINE INFORMATION MEETING に参加することを主目的に、12月7日(土)より12月14日までの8日間の日程で視察旅行を行いましたのでここに報告いたします。

JBIA メンバー9名は12月7日(土)午後1時45分 BA22 便にて成田空港を出発、約12時間の飛行で同午後5時にロンドン、ヒースロー空港に到着、JTB 専用バスで宿泊先の FORUM HOTEL に入り長旅の疲れを癒しました。

(12月9日(月))

JBIA メンバーに係わりの深い BLDSC 見学訪問のため、朝9:30の列車でヨーク市に向かいました。ところが寒波続きによる列車故障によりヨーク到着が大幅に遅れ、午後2時過ぎにたどり着きました。

BLDSC は田園地帯の真っ只中にあり、ヨーク地方は霧氷に煙っておりました。一行は MR. M. SMITH の歓迎をうけ、早速2組に別れて先方担当者により館内ツアーを行いました。

1. 収集活動

BLDSC では SERIALS、MONOGRAPHS、SPECIAL MATERIALS の3カテゴリー別に資料を収集しており、発行地域ごとのセクションでその受入れが行われている。現在の同館所蔵数は、

SERIALS (JRLS)	223,000
MONOGRAPHS (BOOKS)	3,000,000
REPORTS IN MICRO	3,400,000
CONFERENCE REPORTS	300,000

2. リクエスト処理

BLDSC では一日平均約14,000件の原報複写依頼をこなしており、その大半は通常の郵便によるリクエストであり、相変らず日本からのリクエストが英国以外では一番多い。

資料のタイプ別に仕分けされたリクエストフォームは KIST (MONOGRAPHS 用)、POLKA (SERIAL 用)、それぞれの館内データベースにより書誌事項のチェックが行われる。複写機は書庫通路に合計90台

配置され担当者の便利を計っている。

FAX による URGENT ACTION SERVICE 用の FAX ROOM、出荷 ROOM を見学した。

3. 電子出版、オンラインサービス

BL では BNB (BRITISH NATIONAL BIBLIOGRAPHY) ON CD を初めとする電子出版を行っており、そのデモンストレーションを受けた。BOWKER 社の BOOKS IN PRINT と同じ検索ソフトを使用しており、今後も CD-ROM での出版に力を入れる方針のようだ。

Mr. Phil Borden による ADONIS (全文データベース) のデモを通じ、現在360を越える BIOMEDICAL 関係のコアジャーナルを CD-ROM により検索出来るこのシステムは今後の出版界に動向が注視されるであろう。また、BLAISE LINE と呼ばれるオンラインサービスのデモンストレーションも見ることが出来、学術書、地図、楽譜等の20のカテゴリーに分かれた13,000,000もの情報は有用であろう。

前述の通り到着時刻が遅延したため館内ツアーの時間は短縮されたが先方担当者のご努力により有意義なものであった。

最後に JBIA 側を代表して山川社長が謝辞を述べ終了した。

(12月10日～12月12日)

この間、オンライン国際会議開催

会場はロンドン市内オリンピック2コンベンションホール、JBIA メンバーの中で数名は会議に参加したが、その他のメンバーはコンベンションホールの2、3階が展示ブースにあてられて200近くの展示スタンドがあり、そこでの見学、商談等に時間を費やされたものと思われる。この場所に世界の著名な出版社、INFORMATION VENDOR が集合しており、科学技術分野における出版物が、予想をはるかに越える速度で電子出版(特に CD-ROM)に置き換えられてきていることが目の当たりに見せつけられた感である。

(12月10日 14:00)

CHARING CROSS AND WESTMINSTER MEDICAL SCHOOL (UNIV. OF LONDON) にアポイントメントをとり有志メンバーにて訪問し Mrs. N. Whitsed よりスライドを使い同医学図書館の INSTRUCTION を受けた。

又 Mr. R. Wentz より現在出版されている SILVER PLATTER の MEDLINE ON CD-ROM と他社の VERSION について比較、特性等を拝聴することが出来、有益であった。

オンライン国際会議等に参加された JBIA メンバー各位も、この貴重な見聞を糧として今後ビジネスに反映されることを期待いたします。

尚、この旅行中に JBIA メンバーの懇親夕食会を催したことに付き、丸善ロンドン営業所坂島様と紀伊國屋ロンドン営業所、宇田川様にはレストランの予約等をして頂き、ご多忙のところ同席いただきましたことを厚く御礼申し上げます。お陰様で素晴らしいイタリアレストランでの一夜を過ごすことが出来ました。

一行はロンドンでの日程を無事に終え、12月14日午前10時 BA007便にて成田空港に到着し空港にて解散いたしました。

今回のオンライン国際会議への参加を目的とした視察旅行は非常に好評であったので、1992年以降も企画をいたします。会員皆様方の参加を希望いたします。

(ユサコ・大八木進)

(参加者)

第一出版貿易	佐々木大刀夫
国際書房	勢古浩爾
〃	小林正博
三洋出版貿易	新谷雅一
〃	森本 宏
ユサコ	山川隆司
〃	大八木進
〃	増田 豊
〃	北村雅子



BLDSCにて

洋書輸入協会史 (69)

洋書輸入協会顧問 相良廣明

77 ソ連メジクニーガのズメウル氏来日 (続き)

77.1 ズメウル氏訪日の知らせ (続き)

前号では、ソ連のメジクニーガの最高責任者ズメウル氏来日の知らせが届いたので、出版関係者が昭和35 (1960) 年3月26日に、丸善地下ピーコックに集ったところまでを記した。以下はその続きである。

当日打ち合せのため集まった顔触れは次の通り。

日ソ翻訳懇話会 (招待状発送者)、

出版文化国際交流会、日ソ協会、丸善、同出版部、紀伊國屋書店、ナウカ、極東書店、日本郵趣協会、新世界レコード、平凡社。

打ち合せによれば、ズメウル氏来日の目的は、出版関係においては「ソ連書の日本への輸入の拡大及び翻訳の推進」であり、これに応じて出席各社において諸行事を分担することとした。そしてこの打ち合せは、5月17日にも行われたが、このときには新たに海外出版、東京国際書房などが加わっている。

77.2 ズメウル氏来日と歓送迎会

5月23日、日本出版クラブで歓送迎会が行われ、6月6日丸善ピーコックにおいて送別会が開催された。同氏の日本滞在は前後三週間近くに及び、関係各社を訪問すると共に、関西へも出掛け、日光とか歌舞伎の見物もなされている。

同氏帰国後、歓迎委員会の幹事を勤めた日ソ翻訳出版懇話会より関係各社へ「おかげさまで同氏は、日本について非常に良い印象を持ち、皆様の温い歓迎をくり返し感謝しながら帰国されたことを、皆様と一緒に喜びたいと思います。」とのお礼状が届いた。

ズメウル氏の日本訪問は、ソ連の出版と出版物の輸出入、その他の関連事業を司るメジクニーガからの戦後初の最高責任者の来日という所に意義があり、また最初の訪問としてはまずまずの成功だったと思われる。

平成3 (1991) 年12月に、ソ連邦は69年間の歴史を閉じたが、その1ヵ後にこの記事を書きつつ、メジクニーガと旧ソ連の出版界はどうなっているだろうかと思ひ遣った次第である。

78 書籍及び定期刊行物の自動承認制包含範囲拡大の運動 (第三次)

昭和27 (1957) 年4月1日より自動承認制 (A・A 制) に書籍及び定期刊行物が編入され、以来書籍及び定期刊行物以外で我が業界が取り扱う品目に、自動承認制の範囲が広がるよう理事会としては懸命の努力を続けてきた

(自動承認制の発足についてはJBIA 会報 Vol. 22 No. 4、1988年4月号所載、洋書輸入協会史 (29)、31章参照)。

第一次の範囲拡大運動は昭和31 ('56) 年4月から始まり、一年間陳情を繰り返したが、このときの成果は昭和32 ('57) 年4月の発表で、織物見本帳が加えられたのみにとどまった (JBIA 会報 Vol. 23、No. 6~7、1989年6~7月号所載、洋書輸入協会史 (42)~(43)、51章参照)。

第二次の範囲拡大運動は、昭和33 ('58) 年の3月より始まり、昭和34 ('59) 年4月の発表で、「書籍のさし絵として作製されたフィルム (スライドを含む)」と「マイクロカード文献写真」が含まれることとなった (JBIA 会報 Vol. 25、No. 5、1991年5月号所載、洋書輸入協会史 (61)、65章参照)。

78.1 第三次 A・A 制包含範囲拡大運動の始まり

第二次の運動においても、協会会員の要望の半分を実現したにとどまったので、岩戸景気による外貨事情改善輸入自由化の気運を捉え、協会としては昭和34 ('59) 年11月末から、第三次の範囲拡大運動を始めている (JBIA 会報 Vol. 25、No. 12、1991年12月号所載、洋書輸入協会史 (66)、73章の4項参照)。

昭和34 ('59) 年11月25日の理事会では、書籍及び定期刊行物の A・A 制包含範囲拡大の運動を再開したいということ、その運動の焦点品目は、カレンダー、クリスマスカード類、日記帳の三つに絞ることなどを検討した。なかでもカレンダーについては、書籍扱いとするカレンダーと一般カレンダーの区分を、どのように定義付けたら良からうかということで議論があったが、名案がなく、懇談会に掛けて衆知を集めることとした。昭和34 ('59) 年11月30日付の JBIA No. 90、「懇談会開催についてお

知らせ」では、次のように議題の一つとして取り上げることを予告している。

記

書籍及び定期刊行物中にカレンダーを
包含方請願について

書籍扱いとなっているカレンダーを上記請願2回に及びましたが、一般カレンダーと分類不可能のため保留されていますので、適当な表現につきお知恵を拝借致したいと思います。(以上)

12月8日の懇談会の席上では名案も出ず、結局昭和34(’59)年12月9日付JBIA No. 91では、次のように漠然と表現するにとどまっている。

記

懇談会の報告

(前略) 書籍及び定期刊行物中にカレンダー及びダイアリーを包含するよう請願する事になりました。輸入事情も変り、貿易も自由化へ向かっておりますので、再度これを請願することに決った訳であります。(以上)

78.2 通産省へ請願

この懇談会終了後、早速通産大臣宛の請願書の文案を練り、翌昭和35(’60)年1月20日付をもって通産省に提出した。このことは1月23日付のJBIA No. 93により次のように会員に通知されている。

記

新年懇談会の報告

(前略) カレンダー、クリスマスカード類、日記帳を書籍及び定期刊行物、或いは一般A/A中に包含する請願書を、1月20日通商産業大臣 池田勇人殿宛に提出致しました。1月13日通産省公報及び新聞紙上にて発表の通り、輸入自由化措置として4月から約450品目がA/Aに移行される機運にありますので、この際従来度々請願して残っているこれ等も、是非共A/Aに加えて頂く様両担当官に再懇請致しました。(以下略)

しかしながら、同年4月1日付の通産省公報には何の発表もなく、請願の趣旨は昭和35(’60)年度に持ち越されることとなった。

78.3 通産省へ再度の請願の準備

1月の請願は見送られたが、その後も貿易自由化、A/

A品目の範囲拡大の傾向は続いているので、6月の理事会において再度請願書を提出することとし、昭和35(’60)年7月2日付のJBIA No. 107において次のように会員へ問い合わせている。

記

カレンダー等を自動承認製品目中に加えることを請願する件

去る1月20日、カレンダー、クリスマスカード類及び日記帳を、書籍及び定期刊行物又は自動承認製品目中に加える為に第3回目の請願を致しましたが、未だ許可になっておりませんので、理事会においては昨1日通産省の書籍関係の事務官と懇談し、更に請願書を提出することに致しました。

今回は、上記の外に絵葉書も加えたいと思いますが、外に御希望がありましたら何とぞ御申越願います。

つきましては取扱御希望数量、或いは取扱御希望見込金額を具体的に表現したいと思いますから、御手数ながら下記に夫々御記入、本月16日までに御返事下さる様お願い致します。(以上)

理事会で上記の問い合わせによる返事を集計した所、

カレンダー	\$ 10,000,-
絵はがき	2,000,-
クリスマスカード	2,000,-
日記帳	1,000,-
計	\$ 15,000,-

となった。これと、手直しをした「海外出版物の輸入について」というパンフットを持ち、理事会は8月2日大蔵省と通産省を訪問、請願についての打ち合せと根廻しとを行った。タイミング良く、当局は予算計画をしているところであったので、早速請願所の提出をしてみようということとなる。

(続く)

計 報

村山俊男氏(前日本出版貿易株式会社代表取締役社長)は1月18日に逝去されました。享年70歳。葬儀は杉並区宮前のご自宅においてとり行われました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

—日本の出版社をめざして—

アジソン・ウェスレイ パブリッシャーズ ジャパン株式会社

1942年(昭和17年)に M.I.T.の教科書(物理)を出版することにより、アジソン・ウェスレイが出版社として創業して、今年で丁度 50 周年を迎えます。西海岸を拠点としていた教科書会社ベンジャミン・カミングスを含め、物理、数学のみならず、他のさまざまな分野における大学向け出版社として業績を上げてきました。近年、これら教科書ばかりでなく、コンピュータの普及にともない、ベル研究所の研究者による専門書をはじめ、トレード・ブック物として、アップルコンピュータ、サンマイクロシステムズ等の機種別テクニカル・ノート類などの出版により、日本においても多くの方々に愛読されるようになりました。

アジア支社の東京事務所としてスタートした弊社も、アジソン・ウェスレイ・パブリッシャーズ・ジャパン

と名前をかね、本社の海外における売上比率が高いこともあり、世界各地の事務所において独自の出版活動を行うという方針に沿い、昭和 63 年より和書の出版を始めました。一方、英語教育教材(ELT)においては、国内に在庫を持つことにより円滑な流通をはかるとともに、児童用教材や社会人向け(TOEIC 等)については、学習の手引の出版やパッケージ化を国内で行うなど、日本の出版社として多くの読者に受け入れられるよう努めております。

J.B.I.A のメンバーとして他のメンバーの方々とのつながりを強化することにより、読者に買い易く、日本語化により読み易く、親しみ易い日本の出版社とて、多くの方に理解されるようになりたいと思います。

(アジソン・ウェスレイ 増田高生)

文化厚生委員会だより

第62回72会ゴルフコンペ

平成 3 年12月13日 於東松山カントリークラブ

長い間72会のゴルフメンバーとして参加いただいた丸善の安田貢さんが急に他界され、今回のコンペにもエントリーされていたのに、本当に信じられない思いと悲しみがこみあげて来ます。理論派ゴルファー、そしてこよなくゴルフと72会を愛してくれた安田貢さんの為にも、この72会を先ずは100回記念を目指して頑張りたいと思います。

さて、62回大会、都心から一時間と、いつもコース確保にご協力いただいている日貿の中林社長のメンバーコース。優勝は天気、コース、食事、パートナー、スコア、全てに恵まれて45.46の快スコアにまとめた紀伊國屋の吉本さん、本当にお目出とうございました。丸善さんも午後に追い上げて3位に三宅さん、同じく丸善の竹村さんも午前中は2位の好位置につけていたのですが、午後もう一歩及ばず第4位にとどまりました。ピンチヒッターで急の出場となった東京ブックランドの安達高子さ

ん、安定したゴルフで第5位、次回は多分上位に来そうです。初出場の郁文堂の大井敏夫さん、とても70歳を過ぎていたとは思えない程お元気でゴルフを楽しんでくださいました。スコアは今一步の処ですが、くねくねとくせのある難しいグリーンを正確に読んで殆んどパットにミスのない丸善の中山さん、パットの名手のゲーテの村山さんもシャッポをぬぎました。次回は3月12日、日本レンタカラーの鈴木社長にお願いして茨城県のザ・レイクス、7組28名フルメンバーエントリー済みです。72会も益々発展しそうです。成績は下記の通りでした。

優勝	吉本明城(紀伊國屋)	44.46	ネット73
2位	鶴 三郎(東亜ブック)	42.43	ネット77
3位	三宅昭三(丸善)	49.46	ネット81
4位	竹村政彦(丸善)	44.53	ネット82
5位	安達高子(東京ブックランド)	55.63	ネット82
B B	佐川美貴夫(三善)	—	—
ニアピン	大井敏夫(郁文堂)、竹村政彦(丸善)		
ドラコン	安達高子(東京ブックランド)		
	佐川美貴夫(三善)		
ベスグロ	鶴 三郎(東亜ブック)		(S. T.記)

ヴキゼツテリ社英語版から訳した魯庵の『罪と罰』を読んだ瀬沼夏葉は、大正2年の『学鑑』(丸善)にその感想を寄せている。ロシア語に堪能な彼女が原文と突き合わせての批評で、魯庵の文章の巧みなことを評価しながらも訳に正確さの欠ける点を手厳しく批判している。この時、当の魯庵が『学鑑』の編集長であったことを考えると、その公平な編集姿勢に驚きを覚える。

ニコライの「正教女子神学校」に学び、卒業後は母校で教鞭を執っていた瀬沼夏葉の心にロシア文学への熱情をかきたてたのは、他ならぬ『罪と罰』であったといわれている。彼女は「正教神学校」の校長であった瀬沼恪三郎と結婚し、彼の勧めで尾崎紅葉の門下となり夏葉という号をもらう。明治34年には紅葉の校閲を受けて処女翻訳『あけぼの』を始め『神の宴』『火中の花』などツルゲエネフの小品を上梓し、さらに明治35年にトルストイの大作『アンナ・カレーニナ』を雑誌『文叢』に掲載を始めるが紅葉の発病によって雑誌が廃刊となったため惜しくも中断する。明治36年にはチェホフ『月と人』を発表したが、これは日本におけるチェホフ紹介の最初である。以後夏葉はそれまで他のロシア文学者が手がけなかったチェホフを中心に翻訳を次々と出版し、明治45年には平塚らいてうの青踏社の賛助員となって『青踏』にチェホフの『桜の園』や『叔父ワニーヤ』などを連載している。明治期におけるロシア文学受容史の中で二葉亭四迷や小西増太郎などごく少数の翻訳者を除いて大部分が英語からの重訳であったが、彼女によってロシア語原文からの訳が本格的に行われるようになり、特に10余年もの間チェホフを訳し続けてその扶植に尽くした業績は高く評価される。そして大正4年39歳で病没する。最も充実していた文筆活動のさなかにあって惜しまれる短い一生であった。

「女史といえば、(略)何しろ美人でしたよ」と夏葉の印象を直截に表現したのは昇曙夢であった。彼もニコライの神学校でロシア語を学び、夏葉と同じように母校の教師となり、またロシア文学の紹介者としての道を歩むことになった。彼の翻訳作品としては明治37年にツルゲネフの『くさ場』というのが雑誌『新小説』に現れたのが

始めてで、それから次々と翻訳を手がけ明治40年代から盛んになるロシア翻訳文学の中心的人物として重きをなした。特にバリモント、ザイツェフ、クープリン、ソログープ、アルツイバーシェフ、アンドレーエフなどチェホフ以後の新しい作家の作品の翻訳を続々と送りだし、当時の文学青年に好評を博して多大な影響を与えたという。明治43年にはゴーリキー『どん底』を訳し、明治44年の『六人集』明治45年の『毒の園』という訳文集は文学者の間に大きな反響を呼んだ訳業であった。夏葉といひ曙夢といひ、二葉亭四迷亡き後ロシア文学の紹介が絶えなかったのはこの二人の活動によるものと、その功績が高く評価されている。

ロシア文学はいろいろな文学者によって実に多くの作品が翻訳された。明治の40年代以降をみても、森鷗外、馬場孤蝶、茅野蕭々、相馬御風、小山内薫、上田敏、戸川秋骨、正宗白鳥、里見淳、長塚節、挙げ連ねるときりがないが、ロシア語に精通し、ロシア語から直接翻訳ができた文学者は前述の瀬沼夏葉、昇曙夢であり、そしてやがて現れその後のロシア文学紹介を担った中村白葉、米川正夫など極く少数であった。にも拘らず大家を含めてこれ程多くの文学者がロシア物を手がけたのは、芸術性の高い優れた作品が多かったというばかりでなく、ロシア文学に流れる感性や思想的基盤がこの時代の日本の知的風土と共鳴するものがあったのだろう。

川田忠樹氏『歴史のなかの橋とロマン』で興味ある話を見つけて『オックスフォード英語大辞典』を調べてみた。それによると「ローマ法皇」の英語“pontifex”は「橋を造る」を意味するラテン語からきていることが記述されていた。ローマ時代、橋を造り管理するのは聖職者の集団が行ったようで、ローマ法皇はその首長の位置にあって“pontifex maximus”と称せられていた。つまり橋造りの親方というところであろうか。また中世のヨーロッパには橋梁修道会というものがあり、社会事業として橋を建設したといわれている。それと直接関係はないのだが、何かそういういわれを思い起こさせるような「聖橋」ではある。

USACO® & CD-ROM

第4回 CD-ROMデータベース国際会議

—AAMC(マセソン)レポート10周年記念—

The 4th International Conference on CD-ROM Databases

— 10th Anniversary of the AAMC Report —

- 発表テーマ▶ ■IAIMS(統合学術情報システム)の現状と将来
■医学情報提供: オンラインとCD-ROM
■学術研究支援ネットワークにおけるCD-ROM MEDLINEの共同利用
■CD-ROM MEDLINE検索ソフトウェアの比較研究
■ネットワーキングCD-ROMs: 今日の実践的応用と将来の解法
■ADONISの現状

- 発表者▶ ■Nina Matheson教授(米国 Johns Hopkins University)
■梶原賢一郎博士(久留米大学 医学部 外科)
■吉原博幸博士(宮崎医科大学 医学部 第二外科)
■Reinhard Wentz氏(英国 University of London)
■Peter Ciuffetti氏(米国 SilverPlatter Information, Inc.)
■Phil Barden氏(英国 The British Library)

製品紹介社▶ SilverPlatter
Cambridge
CD Plus
ISI等

実 演▶ 製品紹介各社

開催日時▶ 1992年6月15日(月) 9:30~17:00

会 場▶ 経団連会館10階1001号室
(東京都千代田区大手町1-9-4)

定 員▶ 120名

通 訳▶ 日英同時通訳

参 加 費▶ A: ¥15,000 (ニューメディア商品利用者)

B: ¥20,000 (A以外)

いずれも消費税込み

申 込 先▶ ユサコ株式会社 CD-ROM国際会議係
〒105 東京都港区新橋1丁目13番12号(堤ビル)
☎03(3502)6472 FAX.03(3593)2709

主催 **ユサコ株式会社**

USACO®

東京・CD-ROMグループ 千105 東京都港区新橋1丁目13番12号(堤ビル) TEL.03(3502)6471(代表) FAX.03(3593)2709
大阪営業所 千530 大阪市北区堂島1丁目2番2号(日昭ビル) TEL.06(344)6624(代表) FAX.06(341)5291
名古屋営業所 千461 名古屋市中区栄3丁目63番地 TEL.052(931)2601(代表) FAX.052(931)9833
筑波出張所 千300 土浦市富士崎1丁目7番21号(和光ビル) TEL.0298(23)1773(代表) FAX.0298(24)7087

1992年3月 通巻第298号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室 ☎3271-6901 FAX.3271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎371-5329